

CBCニュース

去る三月一日に、シンガポールで開かれたアジア・太平洋神学協議会 (APT A) において、認定委員が全員一致で中央聖書学校の五年認定を決定、APT A 総主事アブラハム・ヴィスカ師から佐布正義校長宛に通知があった。これで当校はアジア・太平洋地域において三番目に認定された学校となる。認定訪問査定はジョン・カーター博士認定委員長以下三名の訪問委員によって、昨年の十月二十八日午前八時から、十一月一日午前十一時までの、五日間に行われていた。

この認定を受けるために、一九九四年九月以来二年以上の歳月にわたり緻密な自己評価作業が行われた。それは、APT A において定められている十項目の認定基準と、それぞれの基準に到達している度合いの決定要素となる基準内容三十三項目、更に、それらの基準内容に付随する百十二項目の具体的指標を物差しに、学校の教育理念、教育目的、教育課程、教師・職員の資格・内容、学生、学習資源、管理と運営、学校施設、財源、卒業生、教会との関係など、聖書・神学教育

に関わるありとあらゆる側面を自己検証する大変な作業であった。しかし、これですべてが終わったわけではなく、認定訪問委員によって評価された十九の項目を更に伸ばす努力をする。すると共に、残る三十九項目について改良、是正作業がこれからも続けられる。

APT A は、一九八七年四月、アジア・太平洋地域にある十六の四年制聖書学校及び、FEA ST (現在は APTS) の代表者達による会合において設立が提案された。同年九月東アジア教育会議において、各国の代表者が一致してその提案を承認し、一九九〇年九月の総会で正式に発足した機関である。

日本人が好む花と言え、真先に頭に浮かぶのが桜であろう。日本人の桜に対する思い入れは、非常に深いものがあるようだ。

ある人によると、あの花の散り際が、どことなく日本人の「無常感」なるものをかきたてるのだそう。しかし、毎年あらゆるところ目にする花見と称する宴会の光景を見てみると、とても「無常感」にひたっているような人はいない。

「無常」という言葉は仏教用語で、この世のあらゆるものは、生滅し、永遠に変わらないものはないという意味だ。

だが、我々クリスチャンは、常にこの自然界にあるものは全て、神様が創られたということに思いがけなく。

今年の入学式では、残念ながら校舎前の桜は、前夜の大雨のため、ほとんど散ってしまっていた。

しかし永遠に変わることのない神様の御言葉を学ぶために、今年も数名の新入生が入学してきた。きっとこの日本で蒔かれている福音の種が、いつか芽を出し、成長し、満開の花を咲かせる光景を見ることができよう。そしてその後は「大収穫」の時である。(N・M)

認定



NEWS ネットワーク

- ・第四十七回卒業式が三月十一日中央聖書教会にて行われ、十四名がそれぞれの任地に向かった。
- ・三月十四日から二十四日まで、山城晴夫、北野耕一両師引率で、十名の学生が関西教区の十三の教会をキヤラバン巡回した。期間中献身者も起こされた。
- ・四月十一日に駒込で開かれた一九九七年度入学式には七名の新生が入学した。
- ・関西分校からは二名が編入。一名が本校生として関西分校に入学した。
- ・一九九七年度前期に佐藤昭雄師と柏崎久雄師が新しく臨時教師として、牧会カウンセリング・教会管理学を教えることとなった。
- ・五月四日から五日に行われた第四十四回関東聖会には学生全員が、様々な奉仕に参加した。
- ・OMのドゥーロス号からイスラム圏伝道のチームが五月九日にチャペルで奉仕をした。
- ・五月二十日のチャペルにはケニヤの駐日全権大使サムソン・チエマイ氏がナイロビのペンテコステ教会について話し、学生が大いに恵まれた。
- ・恒例のスポーツ大会が五月十九日荒川運動場においてもたれ、男性はソフトボール、女性はキックベースボールの試合を楽しんだ。
- ・図書室に視覚障害者用の総合図書目録が入った。点字書籍テープなどについて詳しい問い合わせはキリスト教盲人図書館(電話〇五四―二八五―〇四九六、FAX二八五―〇七四六)まで。
- ・五月二十八日アジア神学協会 (ATA) より派遣されたチームの適正な審査を受け、これから五年間に涉つてB・Th (神学士) レベルの資格を有する学校としての認定を受けた。

【入会のお願い】

中央聖書学校が教団の伝道者養成期間として発足以来、すでに四十六年を数えておりますが、その間多くの方々のご協力と献げ物と奉仕によって幾多の伝道者、働き人がこの学舎から輩出されたことは感謝であります。

さらに学校の設備に充実とゆとりのある運営がなされるためには、多くの方々のご賛同を必要としております。どうぞこの点をご理解をいただき、是非本会にご入会くださるよう心よりお願い申し上げます。

中央聖書学校後援会
会長 山田 亘
後援会入会要領
個人会員 一口年五千元
法人会員 一口年一万元

連絡は中央聖書学校内後援会宛にお願いいたします。

編集

後記

神学校に入学して二カ月余り。ようやく新生活にも慣れてきた気がする。

神学校の時間のサイクルは独特なものだ。少しばかりカルチャーショック気味になったが、毎日の規則正しい生活の中で主を見上げていくとき、「神学校」という小さな枠の中で得られる恵みは、甚大なものであることに気がついた。「あなたの始めは小さくても、その終わりははなはだ大きくなる。」(ヨブ八章七節)

(C・T)

編集責任者 北野耕一
編集 新聞部部長
田中千香子 三宅規之
ステイブ・ピーターソン
別宮健一
事務局 中央聖書学校
豊島区駒込三二一五二〇
TEL 〇三三九一八四九二五
FAX 〇三三九一八四〇六四

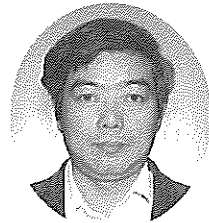
KANSAI 分校

主の御名を賛美します。
素晴らしい先生に囲まれて伝道者になる準備をさせていただいています。
娘がまもなく一歳になります。家族が一つ屋根の下で一緒に生活をし、教会生活を守りつつ学びができて大変感謝しています。
仕事が終わってから、電車を乗り継ぎ約一時間かけて通っています。教室に入るとすでに授業が始まっていることたびたびです。疲れた身体にむち打ちつつ三年間が過ぎました。忙しすぎて、奉仕も学びも仕事も中途半端になり、自分は何をしているのだろうと自問自答する日々がつづき



原 和章

ます。そんな私を分校が支えてくれています。
学びは主にあっていつも祝福されています。先生方は、いつも力強く語り、教え、導いて下さいます。自らの信仰を深く考えさせられる授業があります。私は何を信じているのか。主への奉仕の重さを教えられる授業があります。
謙虚になること、言葉だけでなく実際に働くことの大切さ等、先生の全身から語られる教えに、私はいつも打たれ、心引き締められています。
チャペルで、兄弟姉妹を通して語られる御言葉やお証しに励まされ力づけられています。夜学なので、授業が終われば大急ぎで家路につきます。チャペルが仲間のふれあいの場です。主に仕える者が、共に主を押し御言葉を通して一つになる素晴らしい時間です。献身者を支え導く関西分校にこれからも主の御力が現されることを願っています。

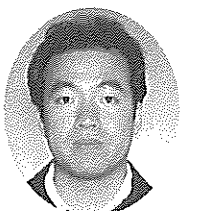
上田 勝
(教会奉仕者コース)

私は三年前、長い間しておりました書店を閉めて、その店舗を改造し、そこを伝道所として献げ、伝道の働きを始めた。
「神の賜物と召命は変わることがありません。」(ローマ一章二九節)とありますが、主の召しに対してためらっていた私をとらえ立ち上がらせて下さいました。そして主のお働きをするためぜひ系統立てた聖書の学びをしたいとの強い願いがあり、先生に相談したところ関西分校の学びを勧め下さり、教会のサポートをいただき学ぶことができました。仕事の疲れから

時に「睡魔の霊」？に授業中おそわれることもありましたが私にとって分校での学びは言葉に尽くせない、得がたい力となり支えとなり武器となっています。
この神学校での学びはたとえ多くの犠牲と時間的制約をもつてもなおそれにも勝る素晴らしい訓練と経験だと思っています。
深夜のバイトをしながら三年目の学びもしつつなお伝道所の働きも続ける、祈らずにはできないほどめぐるしいですが、支えられ充実した歩みをさせていただいています。主にすべてを献げて生きること、主の御言葉に従うこと以上の喜びは他にありません。ハレルヤ！

CBC NEW FACE ~1997年度生~

井桁 正巳



私はこの中央聖書学校に来る前は、特別養護老人ホーム川越キングス・ガーデンで働いていました。三年半前に自分の為だけに生きる人生を捨てて、主の為にこれからの人生を捧げようと決心をして老人ホームに勤務しました。しかし仕事にも慣れ、いつの間にかこの世の思いに煩わされてくるようになっていました。そんなある時ふと、自分の将来について考えさせられる事がありました。それなりのポストに就き、結婚して、子供を育ててなど将来のことを考えたとき、自分の人生しか考えていなくて、イエス様の為に働く夢や希望が無いことに気がつきました。主はイザヤ書五四章二節の御言葉を通し、直接献身の思いを与えて下さいました。神

王子 久美



私が大学生の時に開かれた関西聖会で次の御言葉からメッセージが語られました。
「収穫は多いが、働き人は少ない。だから収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」(マタイ九章三七、三八)。
働き人とは私たちのことで、いろいろな場所に遣わして頂きましよう、というメッセージでした。それまで献身の思いは全くなかったのに、不思議に献身の思いが与えられました。

酒井 知愛
ともあき

私はクリスチャンホームで育ちましたのでいつも献身の道とは隣り合わせでした。
しかし牧師にはなりたくない、又自分のような何のタラントもないような者はなれないと決めていました。そのような私でし

その後しばらく献身表明をやめた時期もありましたが、いつもこの御言葉とメッセージが心にひっかかっていました。逃れたいのに逃れられないという感じでしようか。再び献身の思いが与えられ、CBCへの道が開かれて今ここに居ることを不思議に思うと共に感謝しています。後は全てを主に委ね、主の行われる御業に期待しながら歩み続けたいと思っています。

式見 幸枝



たが高校を卒業するころから、神は私に触れられました。私はさまざまな集会において神のせまりを感じました。そのような中私は神を知らずに疲れた生活を送っている友人を見て、神の愛の生活を伝えたいと思い始めました。
そして神もヨハネ一五章一六節のわたしが選んだという聖句とイエスキリストが子ロバを用いた事を通して、このような子ロバよりも小さな私をも今必ず来る日本のリバイバルのために用いて下さると示されました。
神は私に今こそ日本のリバイバルのために立ち上がりなさいとその後も何度も示され、私は献身を決めました。

いづくまでもいかん ～献身の熱き思い～

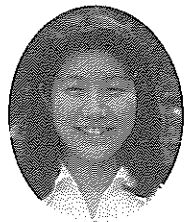
一九九五年一月十七日の阪神大震災によって母教会（御影神愛教会）も、私自身も大きな痛手を受けた。すでに献身を決心していたが、震災以後は毎日どう過ごすのか、足下を向いてしか歩けなかった。先のことを考える余裕もなかった。

「それなのに神は…この世の愚かな者を選び…この世の弱い者を選び…この世で身分の低い者や怪しげにされている者、すなわち、無きに等しい者をあえて選ばれたのである」

（「コリント一章二六―三一節」）

弱さの中にあることはつらかったが、母教会の先生方をはじめめ兄弟姉妹が私の重荷を共に負い、励まして下さった。互いに支え合うキリストの教会の中で信仰生活を送れたことは何にもかえがたい宝であった。そこから折られ送り出されたことは私の誇りでもある。弱さの内に働かれる神の恵みと励まし、召された者を最後まで導かれる主の愛の中で今私は学んでいる。

（関西分校より進級）



田中 千香子

一九九七年十一月のある日、主は私に語りかけられました。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう」（マタイ四章一九節）。

牧師家庭に生まれ育った私は、献身に対して嫌悪感や恐れを抱いていましたが、この語りかけを頂いたとき、私の心は深い感動と喜びにあふれ、主にすべてを捧げて従いたいとの思いが湧き上がりました。自分の力で伝道者になるのではなく、主が私を作り変えてくださるのだと示されたのです。具体的に献身の道が開かれるまでにはいくつものハードルがありましたが、主は乗り越えさせて下さり、道を整えて下さいました。

今後の神学校の学びの中で、



藤本 幸雄

日々この献身の思いを新たに、訓練の中で品性を磨かれ、来るべき日本の大リバイバルの中で主の福音を大胆に語る者となっていきたいと願っています。「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」（ゼカリヤ四章六節）。

現在の私があるのは、ただ主の恵み以外何も無いことを思います。九十年十月、村上牧師によって統一協会から救われ、信じていたものが間違っていたことに気付きぼろぼろの状態になりました。心の傷からイエス様を信じることに反発していた私を主は力強く導いて下さり信仰を持つことが出来ました。その後中学校講師として勤務し

KANSAI BUNKOU

The 関西分校

関西分校が西宮市（兵庫県）の鳴尾純福音教会を教室・事務所にて開設されてから今年でちょうど満十年になりました。四年で一クールですから、現在三クール目の三年目に入っています。

分校は夜間授業によって、CBCの基礎課程を履修する事を目的に発足しました。基礎課程を終わっていますので、駒込の本校に進級し二年間の専門課程を終了して卒業、教団の教職に任職されます。

関西分校を経て現在教団に教職として奉仕しておられる先生は四十数名、本校に進級在学中の学生三名、関西分校に在学中の本科生は二名です。

この分校には、信徒としてまた献身し、教会において伝道、牧会、教育の分野で奉仕を志す者を正規の学生として受け入れる教会奉仕者コースも一九九三？年に開設されました。現在一名の男性が学んでいます。このコースを経て

本校に進級することもできますし、開拓伝道や教会奉仕の実績を積み、教団の教師検定試験を受験して教職になる道も開かれています。

この他、開設当初より、より深い学び、伝道、訓練を希望する一般信徒に各教科が開放されこの十年間に多くの聴講生が与えられ、今年も十数名が学んでいます。この聴講生の中から伝道者を志す者も起こされてきました。

分校は夜間授業ですので、昼間社会で働きながら神学教育を受けることが可能です。また教会生活を母教会で続けながら学ぶことができるという利点もあります。ただ残念ながら家族を持っている者、仕事を続けながら学びたいと願う者にとつて、東京の本校に進むことが困難な場合があります。

そこで分校としての将来的な願いは現在の週二回を四回に倍増する事により四年間で最終専門課程まで終業する事



※今年本校生コースに入学した山本美香さんも学ぶ。（右から四人目）

のできる完結型の聖書学校になることです。これによって、より多くの働き人を養成する事ができるようになることを考えています。

ていた時も、主は職場の愛知から京都の教会に通う毎週の礼拝によって強め養って下さいました。その中で、主に依らねば生きていくことが出来ない、という信仰を主は与えて下さいました。九三年十二月九日主は献身の御言葉を与えられ、翌年四月、献身、七条教会で生活しながら関西分校に通い始めました。主は献身生活と分校の学びにより素晴らしい霊的学びを与えて下さいました。本校においても必要な訓練を受けたいと願います。お祈り願います。

（関西分校より進級）



シリーズ 献身 Vol.8

宣教師の開拓伝道のお手伝いをした時、夏休み中の小学生を集めては、熱心に福音を語った。「救われる」ことを信じて、悔い改めをせよ。小学校四年生の男の子が涙を流して自分の罪を告白して、共に祈ったその姿を、今でも

この事が私の重荷となり、献身への一つの動機となったと考えている。それから聖書を学んで、自分自身で聖書の言葉を伝えたいと思うようになった。

神学生時代、時間があると路傍に出かけた。どこにでも子供がいれば集めて、十字架の話をした。

私の献身

中央聖書学校講師
佐布 トシ子

忘れることが出来ない。中央聖書学校を卒業したとき、自分の使命はこれだと決めて任地に行ったわけではない。教会堂もなかった。人を集めて福音を語ることだけに情熱を注いだ。そのうち、土地を借りることができ、教会堂が建てられるようになった。その時には既に成人が四十人ほど礼拝に集まるようになっていた。さらに感謝なことは、日曜学校に百五十程の子供が集まっていた。子供たちは座ることも出来ない状態で、立ったままでも熱心に聖書の言葉に耳を傾けていた。やがて、平日の教会堂を用いて、幼稚園の子供を集めて聖書の物語をし、一緒に遊び楽しい時を過ごした。本当に希望にあふれた時代であった。

過ぎ去った日々を思う時、献身の動機を、私の働きの中に生かして下さった主に感謝を捧げるものである。

これからも主の導きに忠実に歩み続けていきたい。

中央聖書学校学生募集

主の御声を聞いている者よ、来たれ！
入学資格：受洗後2年以上を経た忠実な教員
高校卒業以上
住所：豊島区駒込3-15-20
電話番号：03-3918-4925
※入学案内は所属教会牧師にお申し出下さい。



現在、学内での活動が中心ですが、将来的には様々なところで、十字架の福音を伝えたいというビジョンが与えられています。

劇団 Fishers 結成

先日、数名の学生有志によって、キリストの福音を大胆に語りたいと、劇団が結成されました。その名は、「フィッシャーズ」。

既に学生伝道集会において、数回の上演がなされ、大成功をおさめています。ユーモアの中にもキリストの十字架が豊かに表された内容に、見る人たちは心を打たれています。

現在、学内での活動が中心ですが、将来的には様々なところで、十字架の福音を伝えたいというビジョンが与えられています。

いづくまでもいかん～献身の熱き思い～

二宅 規之



「牧師にだけはなりたくない。牧師以外なら何をやってもいい。」そう考えて社会に出た私でしたが、社会人として働くに連れて、今の日本が足下から崩れてゆくような危機におかれています。そのことを痛感するようになり、そして「この国が救われる為には大いなるリバイバルを起こして頂くしかない」と確信するに至りました。

献身に対しては畏れの気持ちで強く「主よ、もつとふさわしい人がいくらでもいます。」と逃げていきましたが「恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主があなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。」(ヨシヤ一章九節)と励まされ「主がと

山田 隆子



もにいて下さるのならこれから人生を捧げます。」と決意しました。

私は一九七九年に神様の救いの恵みにあずかりました。自分は何のために生かされていますか、と祈り求めた一九八九年に「あなたが私を選んでくださったではありません」と示してくださいましたが、さらに祈っていく忍耐がありませんでした。その後、学生から社会人になったこともあつて、私は段々と世の中のことと一生懸命になりました。今から二年前に自分の肉体的な思いに突っ走り、それまでに築いてきたであろう全てのものを手放

若林 明子



してしまいました。その事を通して神様は、御言葉だけに信頼して生きる者へと私の信仰を建て直して下さいました。そしてもう一度献身の思いを与えて下さり、「私の選びの器です」「誰が弱くて私が弱くないということがあるでしょうか」と語って下さいました。こんなわからず屋の取るに足りない者をこゝまで愛して下さい下さった主の御愛を宣べ伝えたく、今が神様の時であることを確信し、従って参りました。

私は高校生くらいから、主に大きく用いられたと願っていました。なぜか、伝道者ではないだろう、と思っていました。実業家かデザイナーか、何をしても成功するだろう、とはりき

っていました。専門学校を出て、就職活動をしているとき、心の中がだんだん苦しくなってきました。神様は、私に本当は何を望んでおられるのだろうと、疑問に思っていました。

そのような心で、ユースキャンプに行きました。そして献身の招きで、気がついたら鼻水と涙をいっぱい流し、前に出て祈っていました。その後、はつきりとした召しをしっかりと頂きたいと願い、断食をして祈りました。二日目の夕方、ものすごい平安がきました。三八・五の数字が頭の中で回っていました。私は新約だと思い、三八二頁の五節を見ました。「しかしあなたには、どのような場合にも憤み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい」(Ⅱテモテ四章五節)。主に従って行きます。ハレルヤ。

(掲載は五十音順)